

# 授業科目 高次脳機能障害評価学

【担当教員名】  能登 真一		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	◎	○	
【概要・一般目標：G10】 失語、失行、失認半側空間無視などの高次脳機能障害に関して、個々の症状や定義を把握するとともにそれらを検出するための評価方法を学習し、評価バッテリーのいくつかを実際に行いながら身につける。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 高次脳機能障害の個々の症状の定義を述べることができる 2. 個々の症状を具体的に説明することができる 3. 個々の症状を検出するための検査方法を挙げることができる 4. 検査法のいくつかを実施できる 5. 様々な評価結果をまとめることができる 6. 対象者の高次脳機能障害の全体像を把握し、評価計画を立てることができる 7. 高次脳機能障害に関心を持ち、真摯な態度で学習できる					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	失語の臨床像			1, 2	講義
2	失語の評価方法			3, 4	講義, 演習
3	失行の臨床像			1, 2	講義
4	失行の評価方法			3, 4	講義, 演習
5	半側空間無視の像			1, 2	講義
6	半側空間無視の評価方法			3, 4	講義, 演習
7	失認の臨床像			1, 2	講義
8	失認の評価方法			3, 4	講義, 演習
9	前頭葉症候群の臨床像			1, 2	講義
10	前頭葉症候群の評価方法			3, 4	講義, 演習
11	認知症の臨床像			1, 2	講義
12	認知症に対する評価方法			3, 4	講義, 演習
13	全体像の把握と評価方法の立案			5, 6	講義
14	評価結果の解釈と問題点の整理			5, 6	講義
15	まとめ			1～6	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		標準作業療法学 高次脳機能作業療法学	能登 真一 編集	医学書院	2012・3,800円+税
参考書		高次脳機能障害マエストロシリーズ(3) リハビリテーション評価	鈴木 孝治 編 他	医歯薬出版	2006・2,600円+税
その他の資料					
【評価方法】 出席と定期試験の結果を総合的に判断する			【履修上の留意点】		